

令和元年度 第 4 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第18号 垂水市社会教育委員の委嘱について	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 (任期) 2年	特記事項なし	
報告第19号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について	垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 (任期) 2年	特記事項なし	
報告第20号 令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について	垂水市地区公民館の館長・主事の任命について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

令和元年度第 4 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
令和元年 7 月 9 日（火） 午後 2 時 0 0 分 ↓ 午後 4 時 0 0 分 第 2 研修室	教 育 長 坂 元 裕 人 教 育 委 員 野 村 繼 治 教 育 委 員 田 原 正 人 教 育 委 員 葛 迫 幸 平 教 育 委 員 田之上 厚 美	教育総務課長 紺 屋 昭 男 学校教育課長 明 石 浩 久 社会教育課長 野 嶋 正 人 国体推進課長 米 田 昭 嗣

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和元年度第4回教育委員会定例会を開会した。

2 令和元年度第3回教育委員会定例会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第18号 垂水市社会教育委員の委嘱について

報告第19号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について

報告第20号 令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について

4 その他

垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

5 委員並びに教育長報告及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第18号 垂水市社会教育委員の委嘱について
社会教育課長	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。 (質疑なし)
社会教育課長	報告第19号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	先般、青少年の会議に出席したが、子どもがいそうな場所でも子どもの姿を見かけなくなっている。今は、どこにいるのか。そしてどんなことをしているのか。インターネットとか、ゲームとかをやっていると思うが、そのようなことについて、どう対応していくかということも、今の時代必要ではないのかなと思う。
社会教育課長	そのとおりだと思う。事案等が発生していることから、時代の流れとして捉え、今後そのようなことについても協議したい。
教育長	補導の時間帯に回っても、子どもがほとんどいない。姿を見ないと聞く。
社会教育課長	校区の祭りや、垂水フェスタなどでしか子どもたちを見かけないが、パトロールをしているということが、非行の抑止力にもなっていると思う。
野村委員	活動は実際、夏祭り等で班を作って分担して見回りをやっているようで、このような活動は必要だと感じる。 協和地区では集落座談会というのがあり、地域の皆さんが、あいさつの励行や子どもたちへの声かけを行って、地域の子どもたちを見守っている。
教育長	ちなみに、六月灯が近く始まるが、このときも見回りに出るのか。
社会教育課長	各校区で対応して見回りに出ている。
社会教育課長	報告第20号 令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について 垂水市地区公民館の館長・主事の任命について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。 (質疑なし)
4 その他	垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

教育総務課長	垂水市教育委員会外部評価委員会に提出する垂水市教育委員会の点検及び評価に関する資料、教育総務課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
学校教育課長	学校教育課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
社会教育課長	社会教育課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
田原委員	18 ページの市民スポーツフェスティバルについては、今年度も種目の検討があるのか。
社会教育課長	先日、主催者 4 団体で本年度も開催すると了解された。今後スポーツ推進委員の方々に、競技内容を練っていただいて、その後、地区公民館連絡協議会でお図りさせていただきたい。
教育長	スポーツフェスティバルの方向性について、何か案があるのか。
社会教育課長	午前中には、参加者が楽しめるもので、午後からはグラウンドゴルフ案。参加者みんなが参加できるようにしたほうがよいのではないかとあった。昨年は競技を見ている参加者が多かった。
田原委員	地区公民館によっては、小学校と校区の合同運動会が開催されることから、早めに競技内容が分かれば、合同運動会の種目としてやりたいと考えているために、確認したところだ。
社会教育課長	わかりました。競技内容の情報が分かり次第、情報提供したい。
野村委員	16 ページの学校給食について、垂水の給食は大変評判がよく、昨年も給食甲子園に出場するなどであった。食材の 7 割が県内産であると説明があったが、人気の給食を作るためには、食材や手間をかけて行おうと思うが給食費は各市町村まちまちであるのか、決まっているのかどうなのか。
学校教育課長	給食費については、それぞれの市町村で設定しているものだ。若干の高低はあるが、大体 1 食 250 円～300 円ぐらいだ。
野村委員	少しの金額の差で、それだけ人気のある給食が作れるということは、その給食にお世話になる子どもたちは、非常に恵まれている感じを受ける。 どこかから、給食に対する補助があるとか、あるいは無理をしているということはないか。
学校教育課長	食材関係については、垂水百笑倶楽部より新鮮な野菜などを安価で提供していただき、補助については、水産商工観光課から年間 80 万円ほどの補助をいただき、ブリやカンパチを提供している。

教育長	それと、加えて言うと給食技師の方々が大変研究熱心でこだわりがあり、プライドを持って調理に当たってもらっている。「おいしいものをとにかく子どもたちに提供したい。」という思いがある。
学校教育課長	垂水市の規模で栄養教諭が2名いるということも大きい。
野村委員	わかった。非常に喜ばしいことである。
田之上委員	垂水小学校の遊具でジャングルジムがあるが、修繕がなされてきれいになってはいるが、支柱部分の腐食等コンクリートが塗りこまれて、子どもたちが落下したときに危険と思えるがどうなのか。
教育総務課長	対応については、ゴムマットを設置するなど検討したいと思う。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	1. 「集中豪雨について」 今回も、学校訪問や車座座談会、境小や垂水中央中の道徳の研究公開、日曜日にはクリーアップ作戦など、多くのことがあった。 その中で、7月5日（金）、集中豪雨もやっと明け、車で走りながら気付いたが、山肌のあちこちに爪あとが残されていた。「やはり早くから避難勧告が出されたとおりの結果であるのだ」と一人で納得することだった。 そして、協和小学校の裏山が崩れたと聞いていたので、夕刻になってから様子を見にいった。校長先生がまだおられたので、一緒に現場を案内してもらった。 3階校舎が東西に伸びていて、その東端が山に接するように建っていて、山の高さは約100m位であろうか。山の斜面までは10m位の高さに農道をはさんで、30m位離れていて、余裕の空間があるのだが、その距離を大きく越えて校舎の北側に、崩れた土砂が流れ込んでいた。 学校主事の方が仕事をされている一戸建てがあるが、その北側の壁が土砂で破壊されていて、大変な状態であった。 トイレ棟や体育館の壁までも2mぐらい埋まっていた。ちょうど休校で、子どもたちがいなかったことが大きな幸いであったと言える。 気象の専門家は、今回の集中豪雨について、偏西風の大きな蛇行の影響であると明言している。蛇行によって起こる地球規模の気象変動が原因で、世界中で記録的大雨や、ヨーロッパの熱波、メキシコの寒波等の異常気象が発生しているということだ。そして、これらは全て地球温暖化が大きな原因であり、全世界での異常事態の進行かさらに進むであろうと预言している。

	私たちも、これから起こりうる様々な緊急事態に対して避難行動のあり方を含めて、対応策の抜本的な見直しをやらなければならないと思い知らされた。
田原委員	1. 「水之上小の田植えについて」 6月18日(火)、学校応援団9名で水之上小学校の田植えに参加し、5畝ぐらいの広さの田んぼに、もち米を植えた。 3年生と4年生、2年生と5年生、最後が1年生と6年生の3グループに分かれて、1時間ずつ、合計3時間にわたって、子どもたちのおぼつかない手つきを見ながら、学校応援団の方々の協力の支援で無事終了した。 年1回の体験ながら、6年生は上達していて、早くきれいに植えていたので感心することだった。10月の稲刈りには、また学校応援団も参加して楽しみたいと思った。 2. 「道徳研究会に参加したことについて」 7月2日(火)、道徳の教科化で、授業がどのように変わったのだろうかに興味を持って、垂水中央中学校での研究会に参加させてもらった。 2年生では桃太郎の童話を題材に、鬼の子どもの気持ちになって考えると、桃太郎の行為はどうかかなど、相手の立場になって考えることの大切さを分からせるには、よい題材だと思った。ただ、議論で終わって、心に響いて理解できたところまでいかせるには、どうするのだろうかとの思いを残して1年生の授業に移動したところ、1年生の授業の最後の教師の説話で、そこに至らせるのだということが理解できた。葛藤場面の議論に加えて、さわやかな感動を残すよい説話であった。 今の授業は、いっぱい議論をさせて判断力をつけさせて、そして最後に「心を揺さぶるという場面を持ってこなくてはいけない。それが研究の成果なのだ。なるほど。」と思う大変参考になる授業だった。
葛迫委員	
	1. 「図画作品審査について」 6月25日(火)、令和になって初めての県図画作品垂水市審査会が文化会館で開催された。 昨年に比べ、子どもの思いが素直に伝わってくる作品が多かった。 低学年では学校内で飼育される動物。中学年から高学年にかけては、学校内から学校外に移っていく風景や友人。中学生では、昨年まで多く描かれた海の船の風景が姿を消し、いつも見慣れた市内の風景が多く見られた。 作品を審査して、子どもの成長とともに、描くテーマが変わっていくこと。成長とともに、概念的作品が見られるようになっていくが、高学年から中学生にかけての技術の変化が、今年は特に強く感じた。テーマや色つかいなど、指導のあり方の工夫が随所に見られた。 2. 「和田英作・和田香苗記念絵画コンクールについて」 6月27日(木)、和田英作・和田香苗記念絵画コンクール実行委員会が14:00 から市民館で開催され、昨年度の第5回の実績、決算及び結果報告

	後、第6回の事業計画、開催要項、スケジュール、予算案が報告された。 実行委員会終了後、垂水市観光協会から出席されていた方から、昨年和田賞を受賞した、鶴田さんの作品名「黄泉比良坂（よもつひらさか）1」の黄泉比良坂とはどこですかと聞かれた。後日、本人に聞いてから返事することにした。 本人は、「黄泉比良坂とは、日本神話に出てくる、現世と死者が暮らす他界（黄泉・よもつ）との境にある坂のこと」と回答があった。俗に言う「三途の川のことですね」ということであった。 古事記によると、イザナミノミコトを亡くした、イザナギノミコトは、愛する妻を取り戻すために、「黄泉・よもつの国」の御殿を訪れる。 イザナギノミコトは、「美しい我が妻よ、私とあなたが作る国は、まだでき上がっていない。一緒に帰ろう。」と呼びかけます。イザナミノミコトは、「私は黄泉の国の食べ物を食べたため、あなたの居る世界には帰れない。しかし、せっかく来てくださったのだから、黄泉の国の神々と相談してまいります。その間決して私を見ないでください。」と言い残して御殿を後にします。しかし、イザナミノミコトは戻ってきません。待ちきれなくなったイザナギノミコトは、約束を破って御殿の中に入ってしまう。そして、目にしたのは、腐敗して、ウジがたかったイザナミノミコトだったのです。イザナギノミコトはびっくりして逃げ出すと、イザナミノミコトは私に恥をかかせたと怒り、黄泉の国の魔物を追っ手に放ちます。イザナギノミコトは千人がかりでようやく動かせるという、千引きの岩（ちびきのいわ）で黄泉比良坂を塞ぎます。黄泉比良坂とは、このことで、鶴田さんは、こうも言っていた。「黄泉比良坂は崖という意味もあります。」私は、荒平天神を描いてみましたが、神社に上るためにある綱に、あの世と、現世の境目を感じた。荒平にはその崖に通じる空気があった。 黄泉比良坂は何だったのだろうかと思い、調べることで、そういうことだったのかということがわかった。そのあと古事記を読み続けると、黄泉比良坂の岩の、死の部分と生の部分の間に二人が約束した言葉が書いてあるとある。その死の世界の方には、「私は1日1000人を殺します。」イザナミノミコトは怒って、「私は、1500人を生みます。」と書いてある。それを詠んだときに思ったことは、結局、死があつて生があるのかなと矛盾を覚えた。普通は生が先で死が後ではないかと、あいまいな感じで、「卵が先か、ニワトリが先か」と思いながら古事記を読むことだった。
田之上委員	1. 「新庁舎建設車座座談会について」 6月24日(月)、市長様をはじめ担当課より、今まで様々な条件をクリアして現在に至るまでの経緯をわかりやすく説明があり、私たちは理解できた。 ただ一部には反対の声も街中にはあり、これからさらに丁寧に説明をされ、十分理解を得るようにされていかれるのだろうと思った。 2. 「大隅地区道徳教育研究会について」 7月2日(火)、垂水中央中学校の道徳教育研究会に参加するために、学校へ向かった。

教育長	学校に着いたのは、ちょうど昼休みで、校庭に時折小雨がパラつく中であったが、元気にバドミントンなどをして楽しんでいる生徒がいた。 校内を歩いていると、「こんにちは」と、あちこちから気持ちのいい声を生徒の皆さんがかけてくれた。 音楽室からは、吹奏楽部の子どもたちが練習をしている楽器の音がして、「ああ、もうすぐコンクールだな。頑張れ。」と心の中でエールを送りながら体育館へ行くことだった。日常の学校生活を垣間見ることだった。 授業の始まり前は、緊張もなく、リラックスして和やかに談笑する様子に、クラスのまとまりを感じることもあった。 黙想の時間になると、シーンと時間が止まったかのように静まり、「さすがに中学生」と思うことだった。やはり、良い伝統というものは子どもたちを成長させてくれるのだろうと改めて思うことだった。 授業では、発表の声が小さく感じたが、グループでの話し合いでは活発に意見が出ていた。これからも楽しみな垂水中央中の生徒だと思うことだった。 1. 「最近の事件・事故について」 地区道徳研究会について、小学校は極小規模の境小学校で開催され、校長先生も5年目ということで、この研究授業にかける思いは誰よりも深いものがあつた。 この日開催できたことは、まさに奇跡であり、翌日からは豪雨でとてもできる状況ではなく、校長先生の思いが天にも、また参加いただいた先生方にも届いた、素晴らしい研究公開であつたと思っている。 特によかったことは、極々小規模校でありながら、子どもたちの反応がいい。そして、教師の授業の展開も素晴らしく、先生方の「一人二役は当たり前」という前向きな姿勢に非常に感動した。いわゆる研究授業の理論的なところを発表され、そのまま「研究授業の授業者」ということは、通常の学校規模であればありえないことである。一人一役が普通精一杯のところをこなしていくその姿に感動した。 また、地域の方々の協力やPTAの方々のおもてなしなど、まさに地域と学校が一体となった、まさに道徳らしい研究会であつた。 一方、中学校は、私が驚いたことは、「道徳の授業が楽しくなった。」という生徒が多くいたということだ。 「先ず道徳を楽しむ」という、そういう子どもたちの心。研究紀要を読んだときに、「ああ、子どもたちって、すごいんだな」と思った。それは、教師が教材研究をして良い授業を行っているということではないか。先ほど田原委員からも、「心に響く」とか、「揺さぶる」とかありましたが、道徳の一番の生命線は、「どう本音を引き出せるか」という部分である。それが見事に、できるようになりつつある。そしてまた、もう一方でいうと、歌声とか一緒に部活を頑張るとか、そういう実践力につながるようなよい研究授業ではなかったかなと思うことだった。 中学校は、中学校らしく学年を主体として、組織力を活かしながら素晴らしい研究公開になったと思った。 このように、市を挙げて道徳に一生懸命頑張っているが、一方で社会に
-----	---

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長 6 閉 会	目を向けると、様々な事件が連続して発生している。 例えば、所沢の中学生二年生による殺人事件で、「教科書を隠された」ということに端を発し「友達を刺してしまう」という事件で、教育委員会や学校はトラブルを把握していなかったということを話した翌日には、取り上げていなかったということが出ていたが、やはり初めに何を語るかで、それが一人歩きする怖さを改めて感じた。いわゆる初期対応をどうするかということの行動を含めて慎重に、丁寧にやらなければならないと思うとともに、その前に、教育のあり方、道徳の要の部分で「今こそ大事にしなければならないといけないのでは。」と思うことだった。 東京の老舗の和菓子店の父親が、娘を殺めるという痛ましくショッキングな事件があったが、「日本もそういう世の中になってきたのだなあ。」と考えると、道徳の授業の大切さとともに、改めて感じるのは、「よき親子って何なのだろう」、「よき友達関係って何なのだろう」と、この「よき」とか「良い」という言葉には、一方では違う側面もあるのかなあと思った。 垂水では、このような事件事故がないように改めて願うことであった。 6月11日から7月9日までの主な行事等について報告。 併せて、8月8日までの予定についてお知らせした。
--	--